

京都市右京区における継続的なMMの取り組み*

Continued project of Mobility management at Ukyo, Kyoto city

東 徹**・橋本 高志***・土居 和博****・永田 盛士*****・矢野 晋哉*****・土井 勉*****

By Tohru HIGASHI**・Takashi HASHIMOTO***・Kazuhiro DOI****・Seishi NAGATA*****・Shinya YANO*****・Tutomu DOI*****

1. はじめに

京都市右京区では、平成 19 年度に京都市中心部と右京区を結ぶ市営地下鉄東西線が延伸され、それに伴い京福電鉄の新駅設置や市バスの路線再編が実施された。この機に、公共交通の利用促進を目的に、京都市の市民しんぶんの区民版に折り込む形で右京区「おでかけマップ」を作成、配布した。また、バス路線の再編によってはじめてバス路線が新設された南太秦学区には、追加で「おでかけマップ」等を作成、配布した。

平成 20 年度も継続して取組を続け、南太秦学区に隣接する太秦学区の住民も参加してクルマと公共交通に関するワークショップ「地域に根付いたかしこい暮らし方」を実施した。また、公共交通利用促進を目的に、このワークショップの意見を反映したおでかけマップを含む「かしこい暮らしを考える」冊子を作成、配布した。

こうした取組は平成 21 年度も継続的に実施する予定であり、本稿ではこの継続的に実施されることとなったモビリティ・マネジメントの概要を報告するものである。

2. 京都市右京区の地域的特徴

京都市営地下鉄（東西線、烏丸線）は、京都市を東西南北につなぐ、市内の移動には欠かせない重要な鉄道路線である。しかしながら平成 19 年度まで右京区は、

地下鉄東西線も烏丸線も通っていない、鉄道の利用しづらい地域であった。また右京区の一部地域は市バスの均一区間外であるなど、鉄道だけでなく公共交通が利用しづらい環境であった。

そのため、右京区は他と比較しても自動車が多利用されることが多いエリアであった。

平成 19 年度の地下鉄の延伸、京福電鉄の新駅設置や市バスの路線再編等によって、新設された地下鉄駅（地下鉄太秦天神川駅）を中心とした良好な交通結節点が出来上がったため、右京区の公共交通の利便性が格段に向上したところである。

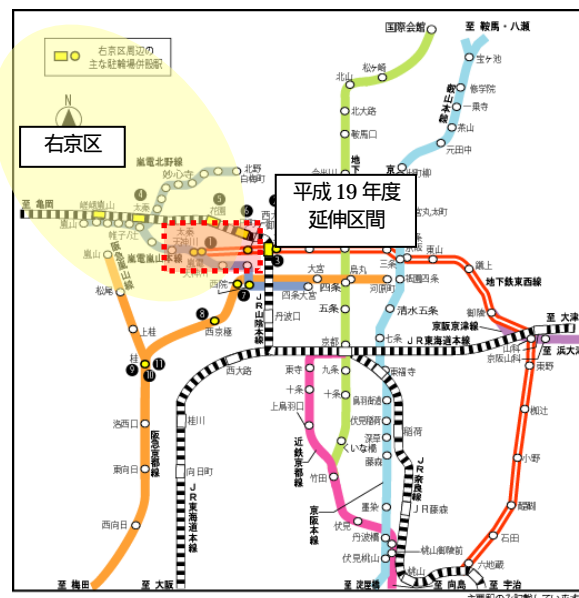


図 - 1 京都市の主要な鉄道路線

*キーワード：モビリティ・マネジメント

**正員，工修，社団法人システム科学研究所
(京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイビル
TEL 075-221-3022, higashi@issr-kyoto.or.jp)

***非会員，京都市右京区役所区民部総務課

(京都市右京区太秦下刑部町12
TEL 075-861-1784, hasci581@city.kyoto.jp)

****非会員，京都市右京区役所区民部総務課

(京都市右京区太秦下刑部町12
TEL 075-861-1784, tsubh990@city.kyoto.jp)

*****非会員，京都市都市計画局歩くまち京都推進室
(京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイビル
TEL 075-222-3483, nagce424@city.kyoto.jp)

*****正員，工修，社団法人システム科学研究所
(京都市中京区新町通四条上ル小結棚町428 新町アイビル
TEL 075-221-3022, yano@issr-kyoto.or.jp)

*****フェロー，博（工），神戸国際大学経済学部
(神戸市東灘区向洋町中9丁目1番6、
TEL078-845-3561, doi@kobe-kiu.ac.jp)

3. 平成19年度の公共交通利用促進のための取組

(1) 南太秦学区でのワークショップの開催

地下鉄延伸に伴うバス路線編成によって、初めてバス路線が開設された南太秦地区では、クルマと公共交通に関するワークショップを開催し、日常生活でのクルマ利用や公共交通利用を振り返り、クルマから公共交通への転換方法を議論した。

(2) 右京区おでかけマップの配布

京都市の市民しんぶんの区民版に折り込む形で「おでかけマップ」を右京区の全戸に配布し、地下鉄延伸の概要と、おでかけマップ、お得な切符情報等を提供し、

公共交通の利用促進を図った。

表 - 1 右京区おでかけマップ配布 概要

配布時期	平成20年1月
配布エリア	右京区 全戸
配布内容	【マップ面】 ・おでかけマップ（鉄道・バス路線図、時刻表） 【マップの裏面】 ・地下鉄延伸の概要 ・説得情報（クルマ利用と健康、クルマ利用と環境） ・切符情報、運賃情報 ・新駅（太秦天神川駅）バス停案内所

(3) 南太秦 おでかけマップの配布

南太秦で実施したワークショップの意見を受けて作成した「おでかけマップ」、「動機付け冊子」、「アンケート」を南太秦の全戸に配布し、公共交通の利用促進を図った。

表 - 2 南太秦おでかけマップ配布 概要

配布時期	平成20年1月
配布エリア	南太秦 全戸
配布内容	おでかけマップ ・おでかけマップ ・時刻表、切符情報 動機付け冊子 ・クルマ利用と「健康」、「高齢者」、「環境問題」 ・南太秦を走るバス情報 アンケート

4. 平成20年度の公共交通利用促進のための取組

平成20年度は、平成19年度に引き続いて交通のあり方を考えるワークショップと、お出かけマップを含む「かしこい暮らしを考える」冊子の配布を実施した。

(1) ワークショップの実施

ワークショップは2回、太秦、南太秦学区の住民が参加して実施した。

ワークショップでは、参加者が自分自身の日常のクルマ利用状況を確認し、公共交通へのなどを議論した。これは、議論を通じてクルマから公共交通利用への転換を促すためである。

また、議論の中で出た意見は、公共交通への転換を促すための「かしこい暮らしを考える」冊子に掲載した。

表 - 3 ワークショップの概要

実施日時	平成20年度11月、12月
参加者	太秦・南太秦の学区民 約50名(2回とも)
議論の内容	1回目 ・自身の日常のクルマ利用を確認する。 ・クルマから公共交通への転換の方法を議論する。 2回目 ・クルマから公共交通へ転換するための工夫を議論する。 ・公共交通の利便性向上のため、改善して欲しい点を議論する。
学区民への話題提供	・都心部におけるクルマ利用の弊害と公共交通利用の意義 ・地下鉄の延伸、バス路線の再編等に関する情報

(2) 「かしこい暮らしを考える」冊子

「かしこい暮らしを考える」冊子は、ワークショップの意見を反映させ作成した。冊子の構成は、A3カラーの裏表の4枚で、それぞれ独立して利用できるものである。

a) 1枚目 冊子の使い方とアンケート



図 - 2 表紙・アンケート



図 - 3 冊子の使い方・アンケート

1枚目の構成は以下の通りであり、冊子を利用するための導入部分とアンケートである。

- 「かしこい暮らしを考える」冊子を作成した経緯や冊子の使い方
- 冊子の使いやすさや公共交通の利用に関するアンケートの設問、回答ハガキ

b) 2枚目 ワークショップの様子と結果、動機付け情報

2枚目の構成は以下の通りであり、ワークショップを通じて出てきた市民の意見や、クルマから公共交通へ転換することの意義である。

- 太秦、南太秦学区民が参加したワークショップの様子、ワークショップの場で出た、クルマから公共交通への転換が可能になる工夫
- ワークショップで出た「参加者の日常的なクルマ利用のルートと、そのCO₂排出量」、「クルマの代わりに公共交通を利用した場合のルートとCO₂排出量」の算出結果
- かしこいクルマを利用するための動機付け情報「クルマ利用と健康」、「クルマ利用と環境問題」、「クルマ利用と維持費」

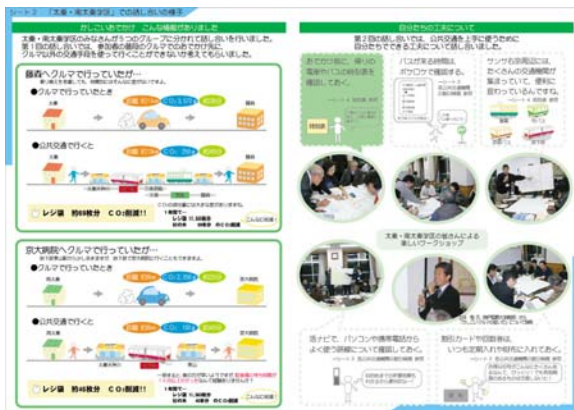


図 - 4 ワークショップの様子と結果



図 - 5 動機付け情報

c) 3枚目 駅周辺の駐輪情報と移動に関する環境負荷計算シート、お得な切符情報

3枚目の構成は以下の通りであり、公共交通を利用しやすくするための切符情報や駐輪場情報と、自分の移動の環境負荷を計算するシートである。

- 太秦、南太秦周辺の駅（私鉄、地下鉄、JR）の駐輪場情報
- 自分自身の移動経路の環境負荷を計算できるシート
- バスや鉄道を利用するときにお得になる切符等の情報

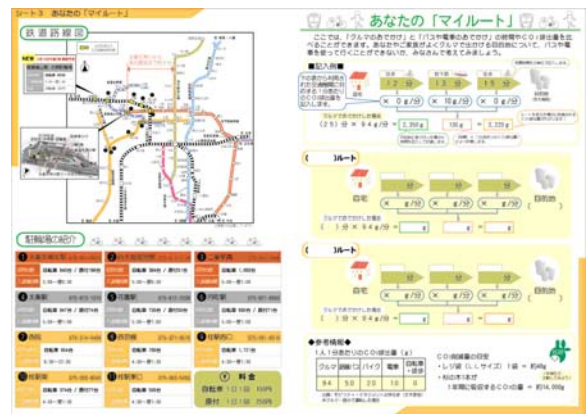


図 - 6 駅周辺の駐輪情報と自分のルートの環境負荷計算シート



図 - 7 お得な切符情報

d) 4枚目 時刻表、おでかけマップ

4枚目の構成は次頁の通りであり、公共交通を利用しやすくなるための情報が掲載されている。

- 太秦天神川駅の地下鉄の時刻表、太秦天神川駅発着のバス（京都市バス、京都バス）の時刻表、嵐電天神川駅の時刻表
- おでかけマップ 太秦、南太秦周辺のバス情報（路線図とバス停）、鉄道路線（路線図と駅）、周辺施設（公共施設、病院等）

図 - 8 時刻表



図 - 9 おでかけマップ

(3) 取組の特徴

本取組の特徴は経済性であり、太秦・南太秦学区全戸に作成したマップ配布で、印刷費を含めて120万円以下の費用で実施できた。

その経済性を実現できたのは、取組に係わった関係者が自分の役割を(時には無償で)しっかり果たせた点が大きいです。以下に、各関係者の役割を述べる。

太秦・南太秦学区民：

- 自治連合会長をはじめとした一般市民が公共交通中心の交通体系づくりを理解し、ワークショップへの参加を通して冊子づくりに協力した。
- 冊子の配布においても、自治連合会の回覧を活用し、自分たちで全戸に配布した。

京都市：

- ワークショップの運営、冊子作成のための市民意見の整理、冊子作成方針の検討、関係機関との調整等、厳しい予算の中、自らの手で補う工夫をしながら遂行した。

民間交通事業者(バス会社・鉄道会社)：

- 公共交通の利用促進のため、ワークショップの補助や冊子作成等、労力を惜しむことなく協力した。

学識経験者

- ワークショップでのクルマ利用に関する啓発的な講演、冊子の監修等、積極的にプロジェクトに参加した。

システム科学研究所：

- 平成19年度の右京区、南太秦のおでかけマップデータ、会社として蓄積しているモビリティ・マネジメントのデータを活用し、できるだけ安価に冊子を作成した。

3.まとめ

本取組は、平成19年度、平成20年と右京区において実施されており、平成21年も継続的に実施される予定である。

継続的に実施できているポイントは、以下の点が考えられる。

- 自治連合会長等、推進のために中心的な役割を果たすことのできる地域住民の存在
- 右京区役所の施策に対する理解
- 右京区まちづくり円卓会議の全面的なバックアップと、公共交通事業者の協力的な姿勢
- 継続的に実施できていることで、おでかけマップ等のデータが蓄積され、より安価に作成が可能な点

このような公共交通利用促進のための取組は、継続的に続けていくことが重要であると考えられる。よって、上記の点を踏まえ、今後も継続できるように検討するとともに、本取組の効果を検証することが重要であると考えられる。

謝辞

本稿は、平成20年度に京都市右京区において実施した業務よりデータの提供を賜り、作成いたしました。ここに深甚の謝意を表し、厚く御礼申し上げます。